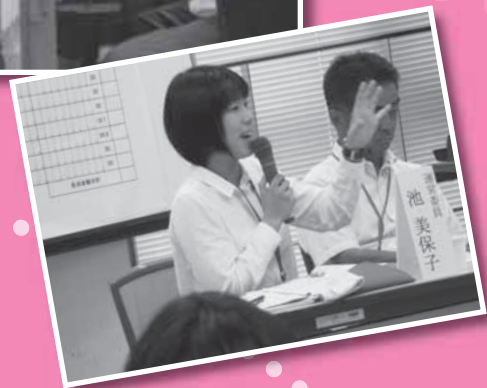


公益信託高知市まちづくりファンドニュース

# まちファン

## 23・24号

2015年3月20日



### ● 目次 ●

#### 公益信託 高知市まちづくりファンド 2013年度 最終発表会

卒業	2
助成金の返還	2
プレゼンテーション	
「まちづくりはじめの一步」コース	2
「まちづくり一歩前へ」コース	3
2013年度最終発表会を終えて	5

#### 公益信託 高知市まちづくりファンド 2014年度 公開審査会

審査結果	6
書類審査	
「学生まちづくり」コース	7
「まちづくりはじめの一步」コース	7
書類審査を終えて	7
プレゼンテーション	
「まちづくり一歩前へ」コース	8
「まちづくり拠点整備」コース	10
運営委員の紹介	10
2014年度公開審査会を終えて	11

#### 公益信託 高知市まちづくりファンド 2014年度 中間発表会

プレゼンテーション	
「まちづくりはじめの一步」コース	12
「まちづくり一歩前へ」コース	12
「まちづくり拠点整備」コース	14
退任の挨拶	14
2014年度中間発表会を終えて	15
運営委員の紹介	15

「公益信託高知市まちづくりファンド」とは	16
今後のまちづくりファンド(予定)	16

# 2013年度 最終発表会

## 発表会の流れ

2014年7月26日(土)、「公益信託 高知市まちづくりファンド」2013年度B・Cコース10団体による最終発表会が開催されました。応募団体・一般・関係者合わせて約50名が参加しました。

### 1 プレゼンテーション



助成先団体が事業の報告を模造紙1枚にまとめ、発表(B・Cコース3分間)。

### 2 意見交流



運営委員や参加者からの感想、または質疑に対し、助成先団体が応答。

## 卒業

「まちづくり一歩前へコース」は、同一事業に対し、3回まで助成を受けることができます。

「特定非営利活動法人高知障害者スポーツ地域振興会」は、2011～2013年度と連続助成を受け、ファンドを卒業することになりました。

今後の更なるご活躍を期待しています。



## 助成金返還の報告

2013年度助成先団体より、助成金の返還がありました。

### B2:ちっちゃんお店の勉強会

30,707円 [助成対象外による経費]

### C8: Sunday Market Supporters

65,971円 [事業内容縮小]

## B 「まちづくりはじめての一歩」コース

### GROUP これから青春!! まだまだ青春!! 幸せの輪まちづくり

#### 1 秋山こだま会



登校中の子どもたちと挨拶を交わすよう心掛けている。子どもたちからも元気に挨拶してくれるようになった。「ふれあい講座」は、健康、子育て、共生、旅行、交通、地震、演芸などのテーマで7回実施。延べ575名の皆さんが参加してくれた。また、「ふれあい教室」は、参加者の年齢を問わず、9教室をそれぞれ月2～4回実施。量販店などでの展示物を見て、教室への見学や参加を希望する人も増えた。今後も地域の触れ合いを深め、若い人たちを育てながら活動を継続していきたい。

登校中の子どもたちと挨拶を交わすよう心掛けている。子どもたちからも元気に挨拶してくれるようになった。「ふれあい講座」は、健康、子育て、共生、旅行、交通、地震、演芸などのテーマで7回実施。延べ575名の皆さんが参加してくれた。また、「ふれあい教室」は、参加者の年齢を問わず、9教室をそれぞれ月2～4回実施。量販店などでの展示物を見て、教室への見学や参加を希望する人も増えた。今後も地域の触れ合いを深め、若い人たちを育てながら活動を継続していきたい。

#### VOICE

- 講座で交流することにより、日常で挨拶を交わせる関係が築け、若者たちにとっても、いい環境だと思う。
- 地域を大切にしたい人のつながり、子どもから高齢者までの活動が素晴らしい。中間年齢層はどうか?
- 人に喜んでもらおうという姿勢が素敵。

### GROUP ちっちゃんお店の活性化で高知のまちを元気にしよう!

#### 2 ちっちゃんお店の勉強会



2月24日、お店訪問の3回目として、土佐包丁工房で開業時の苦勞、売上を増やすための工夫や努力、業務の効率化や品質管理などについて話をしてもらった。3月、4回目の勉強会では、設計事務所で、営業に至る経緯や家造り、建築の様式やデザインなどの話を聞いた。4月、愛宕商店街へPRのチラシを配布しに行った際は6店舗が協力してくれた。5月、5回目の勉強会では、建築で特許を取っている企業の工夫点について聞いた。6回目の勉強会も実施。この1年間の反省点を踏まえ、活動・宣伝など、考えていきたい。

2月24日、お店訪問の3回目として、土佐包丁工房で開業時の苦勞、売上を増やすための工夫や努力、業務の効率化や品質管理などについて話をしてもらった。3月、4回目の勉強会では、設計事務所で、営業に至る経緯や家造り、建築の様式やデザインなどの話を聞いた。4月、愛宕商店街へPRのチラシを配布しに行った際は6店舗が協力してくれた。5月、5回目の勉強会では、建築で特許を取っている企業の工夫点について聞いた。6回目の勉強会も実施。この1年間の反省点を踏まえ、活動・宣伝など、考えていきたい。

#### VOICE

- 小規模のお店同士が成功の秘訣を学び合っていて良いと思う。
- 「小さなお店で、まちを元気に!」は、とても良い視点だと思う。
- 毎月、見学や勉強会を開催できたことは良かった。せっかくなので更に広げて実施できる方法を工夫すると良い。

# C 「まちづくり一歩前へ」コース

## GROUP 1 要約筆記で情報バリアフリーのまちに!

### 1 NPO法人 要約筆記 高知・やまもも



聴覚障害やその周辺の人たちに、要約筆記というコミュニケーション支援を知ってもらうため、活動紹介パンフレットと動画を作成。パンフレットは 10,000 部作成し、高知市内の医療、行政、教育機関、郵便局や量

販店に設置を依頼、動画は許可をもらった現場で放映した。また、パンフレットを設置してくれた団体にアンケートを実施し、一部団体からパンフレットの追加依頼があった。HP のアクセス数も約 3.5 倍と増加しており、次のステップでは IT を活用しての情報バリアフリーをめざしたい。

#### VOICE

- 自分たちの活動をPRするための動きが多いのは素晴らしいと思う。
- ホームページもよくできている。動画をアップしていて良い。
- パンフレットだけに頼らない、現代に合った宣伝だった。
- 活動が伝わる良いCMだと思うので、多くの場で流すと良い。

## GROUP 2 食べることから始める、元気なまちづくり

### 2 食を考える委員会



数あるレシピの中から 77 品目を選択し、簡単に手早く作れる料理のレシピ集 100 部を作成。ヘルパーさんたちが活用しやすいよう、食材ごとに数品目を選択し、料理に役立つ便利メモを加え、持ち運びのしやすいサイズ

とした。

ただ、完成時期が遅くなったため、販売開始も遅くなったことが反省点。また、食事支援の講習会を 3 回実施。テーマごとに管理栄養士や歯科衛生士が講師を務めた。情報交換も熱心であった。食べることで、栄養の大切さを啓発し、他職種、他施設ともつながることができた。

#### VOICE

- 毎回、問題点を見つけ、次の取り組みに進めていて素晴らしい。
- 介護する人のつながりも生まれて良い。
- レシピ集作成に 2,700 円、販売 500 円では継続が難しそう。
- 一般の方も見られるよう、有料でダウンロードできるように検討してほしい。

## GROUP 3 木を、花を植えよう、森をつくろう

### 3 森の中の高知駅



高知駅の正面花壇をメインに、年間 1,000 株の花植えを実施。11 月には球根、1~2 月には冬・春に咲く花を植えた。6 月には夏に向けて花壇を耕し、全て植え替えた。また、夏場の水やりが特に大変なので、自動

散水機を設置した。旅広場の駐車場脇には、この春、蠟梅(ろうばい)を 1 本植え、龍馬 3 志士像の前にはプラントボックスを 3 つ設置。広報は、帯屋町で毎月チラシを配り、月報を応援団、数十人に送付。今後はもう少し活動範囲を幅広くしていきたいと思っている。

#### VOICE

- 森のような駅という発想は素晴らしい。
- 雑草をひくのが大変だと思うが、定期的に会員が集まってやっているか?
- 散水機を取り付けたことで、他の作業に時間が使えそう。
- いつも綺麗だなと思って見ている。地道な活動、これからも続けてほしい。

## GROUP 4 みんなで考えるホームレス支援と貧困問題

### 4 こうちネットホップ



夜回りに力を入れながら会報を発行。リーフレットの活用でホームレスの人とのコミュニケーションができ、生活支援にもつながった。また、講演会では「老人漂流社会」というNHKの番組を作ったディレクターや、

生活保護を受けていた当事者、子どもの貧困問題に焦点を当てた阿部彩さんなどを招いた。学習会で交流する中で、関心をもって夜回りに参加する人が増え、関係団体とのつながりも生まれてきた。学生との交流では、貧困問題を個人責任にしないということの意義を理解してもらうことができた。

#### VOICE

- ホームレス支援を提案したことに感動。思いやりのある誰もが生きやすい社会に向かうと良い。
- 行政よりも身近な市民の立場から活動的な支援を行っている。
- 講演会には多くの人に参加しているようなので、ファンドの助成を更にPRしてほしい。

GROUP 音楽の力でまちを元気に!

5 高知街ラ・ラ・ラ音楽祭2013実行委員会



昨秋は 10 会場で演奏者 129 組 460 名の参加となり、来場者数は約 5,000 人だった。今回、新たに試みたスタンプラリーは、他の助成先団体の皆さんともっと交流ができないものかと試行錯誤したもので、「福祉

住環境ネットワークこうち」や「Sunday Market Supporters」などが中継地点となった。春に開催される「土佐のおきゃく」での音楽祭では、多くの中高生の参加があって盛り上がった。今後、若い世代やまちづくりファンドの仲間と更につながって、皆さんに「いいな」と思ってもらえる祭りにしていきたい。

VOICE

- 会場増設やスタンプラリーなど、前向きな企画が良い。
- 春の「ラ・ラ・ラ」も始めて楽しみ! 学生を巻き込んでいるのも良いと思う。
- ファンドの助成がなかった年との違いは?
- まちファンクラブ、いろいろなNPOとの輪が広がっていて素晴らしい。

GROUP 障害者スポーツを通じて障害者理解を深め、共に生きる地域づくりをめざそう

6 特定非営利活動法人 高知障害者スポーツ地域振興会



障害当事者が小中学校や希望の場所へ出向いて車いすラグビー体験をしてもらう「出前体験交流学習」と、春野の障害者スポーツセンターで行う「体験教室」を実施。グループワークでの質問

では、普段の生活を知ってもらうことにより理解を深めたり、思いやりの気持ち育てたりする機会が増えてきた。ボランティアも少しずつ増え、参加してくれたり、Facebook で投稿してくれたりしている。今後の資金確保と、障害当事者の参加者を増やすことが課題。社会貢献をめざしている他の団体とも連携していきたい。

VOICE

- 障害のあるなしに関わらず、みんなで楽しむ姿勢が良い。
- 子どもの頃から障害に対する理解を育てられる。
- 体験後に意見交流の場を設けているのが良い。
- ファンド卒業後、収入の見込みは?
- 障害者と一般の交流が地域まで広がっていくと良い。

GROUP 高齢になっても、障害を持っても、出掛けたいまちの実現に向けて!

7 特定非営利活動法人 福祉住環境ネットワークこうち



高齢者や障害者を対象とした外出に関するアンケート調査で、バリアフリーや移動手段、まちなかに集える場所がないことなどが出掛けられない原因であることが分かった。学生ボランティア育成では、店舗での聞き取りを行い、バリアフリーマップを作成。公共交通の乗降サポートを理学療法士、看護師等が行った結果を商店街や公共交通関係者に報告し、利用促進について検討した。報告書は商店街400店舗にも配付。協力者、商店街、学生ボランティア、他団体の皆さんへと、啓発の輪が広がり、行政の政策を検討する動きにもつながった。

聞き取りを行い、バリアフリーマップを作成。公共交通の乗降サポートを理学療法士、看護師等が行った結果を商店街や公共交通関係者に報告し、利用促進について検討した。報告書は商店街400店舗にも配付。協力者、商店街、学生ボランティア、他団体の皆さんへと、啓発の輪が広がり、行政の政策を検討する動きにもつながった。

VOICE

- 外出支援のためのアンケート調査、労作だと思う。
- 定期的に行われることで、外出計画ができる。
- 行政を動かしたことは素晴らしい! これからも頑張っていきたい。
- 障害を問題とせず買い物ができる。生きる力へとつなげる活動として素晴らしい。

GROUP 若者による土佐の日曜市の活性化に向けた取り組み

8 Sunday Market Supporters



出店サポート、観光案内、休憩所の運営、イベントの開催ほか、校内連携授業の一環として、高知商業高校への授業を行った。また、日曜市の食材を使ったサンドイッチ販売では、限定予約食を 20 分で完売させ、と

ても喜んでもらうことができた。高知大学生の受け入れを多く行ったことで良かったと思ったのは、日曜市のファンが更に増えたということ。今後の展望としては、この事業を通して、知ったり、感じたりした日曜市の魅力を、県内外の皆さんに知ってもらおうきっかけを作っていきたいと思う。

VOICE

- サンドイッチは良いアイデア。継続的に販売してほしい。高校生の授業も良い。
- 県外から来られている高知大生が、卒業後は県外で高知の良さを発信してくれると思う。有意義な活動。
- 高知から各地へ散った学生OBのネットワークを作ってみては?

# 二〇二三年度最終発表会を終えて

副運営委員長

堀 洋子

(社団法人 高知県建築士会)



二期目一年目のファンドは、応募事業の全てに助成が決定されました。ファンド始まって以来のことです。まちづくりの形も多様に広がり、また、各団体との連携が取れ始めたように思います。

まちづくりの原点、地域密着型とも言える事業の「秋山こだま会」。高齢の方々が地域を巻き込んでいて素晴らしいですね。若い世代へのバトナツッチも視野に入れて継続的な活動をされています。

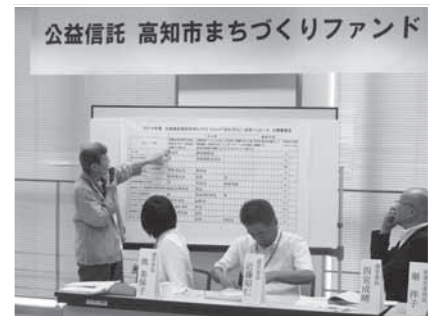
高知独特のイベント活動によるまちづくり事業として、「森の中の高知駅」は、心地良い緑の空間をつくるために根気強く情報発信されていて感心しました。また、運営委員として一番嬉しかったのは、「高知街ラ・ラ音楽祭実行委員会」が、他のファンド事業との連携、「まちファン」の市民へのアピールなど、イベントの持つ最大なる力を生かした取り組みがあったことです。今後、イベントグッズなどの販売で収益があれば、可能な範囲で「まちファン」への寄付にも回していただくと有り難いですね。「Sunday Market Supporters」は、高知市の文化のひとつである日曜市が高齢化するのを目の当たりにして、若い人が若い人の視点でサポートをしていきたいという、活気あふれる事業です。問題に突き当たりながら、盛りだくさんの事業を一進一退、臨機応変に対応されています。今後は、学生の引き継ぎをスムーズにできるシステムを形づくってくださいます。

次に、日常生活に困っておられる方をサポートし、共に生きる「まちづくり」をめざしている事業。「ちっちゃなお店の勉強会」は、公開審査会で「まちづくり」の視点として難しいと感じたものの、新しい可能性を含めた取り組みということで期待していました。未消化だった部分も数あると思いますので、勉強会のみで終わらせず、次なる展開に向けて動き出していきたいと思えます。「要約筆記・高知やまも」は、長年の活動の賜物で、組織が確立されています。前半、パンフレットやホームページ

の動画を作成し、後半、それらを活用して、事業を行う上での問題をひとつずつ解決されています。「食を考える委員会」は、地域で暮らしたい人や介護を必要とする人に、食事を支援する広報活動の取り組みで、着眼点が非常に良いです。介護職の人への直接指導になりがちですが、ヘルパーさんを動かすという、問題解決に向けての、最短の取り組みですね。介護が必要になって、一日のうちで最後の楽しみとなる食事の時間を支えることは、市民の健康につながる優しいまちづくりと言えるでしょう。

「こうちネットホップ」の活動は、非常に大切な課題であり、必要な取り組みです。昨年からの景気が上昇傾向と言われますが、実は、市民生活の中ではますます格差が広がってきています。公助共助の精神でいろいろな団体とネットワークづくりに取り組み、より多くの市民に知ってもらい、共に安心して生活できる高知のまちづくりの思いと熱意が感じられます。援助された方が今度は援助の側に回るといふ発表を聞いて、輪の広がりを感じました。今回、卒業された「高知障害者スポーツ地域振興会」は、障害者の方が自ら活動し、障害者とともに、スポーツを通して障害者への理解を求め、障害者自身の社会参加を促し、また、サポートをするボランティアを参加に導くという、共に生きる「まちづくり」の見本となるような素晴らしい活動だと感じました。「福祉住環境ネットワークこうち」は、アンケートを取りながら商店街の意識改革をするというところで多少つまづいた部分もありましたが、実働の部分で地道に活動され、行政を巻き込む動きが素晴らしいです。

最後になりますが、見え始めました当ファンドの助成事業の連携がさらに進められ、まちなかの点と点がまちじゅうにあふれて、一つの面になつていく、そんな元気な高知のまちになるように、皆さんと一緒に活動していきましょう。



# 2014年度 公開審査会

## 発表会の流れ

2014年7月27日(日)、「公益信託 高知市まちづくりファンド」2014年度A・B・C・Dコース17団体による公開審査会が開催されました。応募団体・一般・関係者合わせて110名が参加しました。

## 2014(平成26)年度 第12回 公益信託高知市まちづくりファンド助成事業

### ABコース

#### 1 審査



事前の書類審査にて助成団体を選考し、公開審査会場で発表。

#### 2 団体による事業紹介



助成対象となった団体による事業内容の説明。事業紹介1分間。

### [A] 学生まちづくりコース (助成先1団体)

No.	グループ名	申請額(万円)	助成額(万円)	助成額合計(万円)
1	えがお宅配便	4.4	4.4	4.4

### [B] まちづくりはじめの一步コース (助成先2団体)

No.	グループ名	申請額(万円)	助成額(万円)	助成額合計(万円)
1	一宮遍路道花いっぱい育てる会	5	-	10
2	高知のまちを考える十八の会	5	5	
3	高知アロマボランティア団体ふわり	5	5	

2014(平成26)年度

助成額合計 3,397,000 円

### CDコース

#### 1 プレゼンテーション 2 一次判断



応募団体が事業内容を模造紙1枚に記載。Cコース3分間、Dコース5分間で発表後、質疑応答。



運営委員が、応募事業について(a)(b)(c)の3段階の判断をする。  
※(a)(b)(c)については下表参照。

#### 3 質疑



一次判断で(b)(c)が多い事業への質疑応答。

#### 4 最終判断 助成事業・金額の決定



運営委員が助成対象として推薦する事業を選ぶ。結果、過半数(5票以上)の推薦を得た事業が助成先に決定。

### [C] まちづくり一步前へコース (助成先8団体)

No.	グループ名	一次判断			最終判断			助成額合計(万円)
		(a)活動企画内容を支持し、今回のサポート助成が必要だと考える	(b)活動内容についてももう少し話を聞き、今回のサポート助成が必要と判断したい	(c)社会的に意義がある活動だが、サポートの助成趣旨には馴染みにくいと考える	今回の助成対象として推薦する	申請額(万円)	助成額(万円)	
1	さくら会	■■■■(3)	■■■■■(5)		●●●●●●(7)	30	30	225.3
2	森の中の高知駅	■(1)	■■■■■■■(7)		●(1)	30	-	
3	えがおプロジェクトMaquette ※1	-	-	-	-	-	-	
4	高知県リハビリテーション研究会 食を考える委員会	■■■■■(5)	■■■■(3)		●●●●●●(7)	30	30	
5	こうちネットホップ	■■■■■(5)	■■■(2)	■(1)	●●●●●●(7)	30	30	
6	田辺島空襲を伝える会	■(1)	■■■■(3)	■■■■■(4)	●(1)	26	-	
7	高知街ラ・ラ音楽祭2014実行委員会	■■■■■■(6)	■■■(2)		●●●●●●(7)	30	30	
8	大津子ども会連合会	■(1)	■■■■■■■(6)	■(1)	[1]●●●●(4) ※2 [2]●●●●●(6)	30	30	
9	Sunday Market Supporters	■■■■■(5)	■■■■(3)		●●●●●●(6)	18.7	18.7	
10	NPO法人 要約筆記 高知・やまもも	■■■■■■(6)	■■■(2)		●●●●●●(6)	26.6	26.6	
11	高知駅北サイト「栄える」TOWN実行委員会	■■■■■■(6)	■■■(2)		●●●●●●(7)	30	30	
12	NPO・JRC日本ちびっこ龍馬元気の会	■■■■(3)	■■■(2)	■■■■(3)	●●(2)	30	-	

※1...審査会の前々日、他の助成が決定したことの通知があり、審査辞退の申し出があったため、公開審査から除外した。  
※2...[1]4/8票で同数。[2]応募団体との討議。過半数を超えない場合は、助成しないことを確認の上、再投票。結果、6/8票で「助成する」ことが決定した。

### [D] まちづくり拠点整備コース (助成先1団体)

No.	グループ名	一次判断			最終判断			助成額合計(万円)
		(a)活動企画内容を支持し、今回のサポート助成が必要だと考える	(b)活動内容についてももう少し話を聞き、今回のサポート助成が必要と判断したい	(c)社会的に意義がある活動だが、サポートの助成趣旨には馴染みにくいと考える	今回の助成対象として推薦する	申請額(万円)	助成額(万円)	
1	NPO法人 地域サポートの会さわやか高知	■■■■(3)	■■■■■(4)	■(1)	■■■■■(5)	100	100	100
2	こども支援ネットみんなのひろっぱ	■■■■(3)	■■■■■(4)	■(1)	[1]■■■■■(4) ※3 [2]■■■■■(4)	100	-	

※3...[1]4/8票で同数。[2]応募団体との討議。過半数を超えない場合は、助成しないことを確認の上、再投票。結果、4/8票で「助成しない」ことが決定した。

## A 「学生まちづくり」コース



GROUP 日曜市を、より買い物がしやすい場所へ

### ① えがお宅配便

大学の授業で「日曜市の活性化につながる活動を」という課題があり調査に行った。高齢者や妊婦、身体に障害のある人たちが買い物をするのを見て、大変そうに思い、どうしたら買い物がしやすい環境になるかを考えた。杖をついたお年寄りが休憩していたので、もしカートがあったら買い物しやすいと思うか聞いてみたところ、「前からあった方がいいとは思っていた」という声が聞けたので、そういったニーズを他の人も感じているか調べて、具体的な形になるよう行動を起こしていきたい。

## B 「まちづくりははじめの一步」コース



GROUP 市民対話「災害～まちの再生」

### ② 高知のまちを考える十八の会

一般市民とともに、ゆうあい工房で毎月、学習会を企画・実施している。その学習会の講師である村上和彦氏は、千葉県でまちづくりに関わり、実際に東日本大震災の震災地である南三陸に入り災害の支援活動を行っている。これまで、災害から身を守ることにについては、さまざまな学習が行われているが、災害後の復旧についてはあまり議論がされていないので、この点を市民と一緒に考えていきたい。継続は力なり、未来を考えることで災害を乗り越えるパワーを共有したいと思う。



GROUP 高知家アロマでお遍路さんに足湯のおもてなし!

### ③ 高知アロマボランティア団体ふわり

歩きお遍路さんに、高知県産のゆず精油を使った足湯で、おもてなしをする。活動の目的は、高知県産のアロマの効果を知っていただくことと、あたたかくおもてなしをすることで、「また高知に来たい」と思ってもらうこと。高齢者や親子を対象としたアロマ教室などで、高知県のアロマを拡げる活動をしていて、馬路村のユズの精油を使用しているが、ファンドの趣旨を考え、高知市内の生産者が作った精油を使って活動したいと思っている。事業が更に拡がっていくよう頑張って活動する。

## 書類審査を終えて

副運営委員長

堀 洋子

(社団法人 高知県建築士会)



高知市まちづくりファンドは、行政の枠からはみ出した部分をひろいあげる、縛りのない助成です。獲得するにはエネルギーを必要としますが、高知のまちで楽しく暮らせる一助になるでしょう。今回、そんな「まちづくり」の最初の一歩である「学生まちづくり」コースに三団体、「まちづくりはじめの一步」コースに三団体、計四団体の応募があり、そのうち、三団体の助成が決まりました。

まずは、「えがお宅配便」。日曜日には、さまざまな方が買い物に来るということを想定して、当ファンドで助成を受けている高知大学の学生たち「Sunday Market Supporters」の事業とも、ぜひ連携して活動してほしいです。次に、「宮遍路道花いっぱい育てる会」。地域を巻き込んだ良い取り組みですが、接待所の設置場所に問題があるとの意見があり、今回、助成対象となりませんでした。アイデアを尽くして、もう一度トライしてください。「高知のまちを考える十八の会」は、現在、行政でも災害後のまちづくりに関しての話が出てきていないということからもいい取り組みだと思います。気になる点として、行政や研究者の意見との間に食い違いがあると、市民の不安を煽ることになるので、十分考慮して進めてください。「高知アロマボランティア団体ふわり」は、地産地消で、足湯のおもてなし、遍路の方を癒す良い取り組みです。足湯の準備に苦労されると思いますが、頑張ってください。

# C 「まちづくり一歩前へ」コース

## GROUP 地域の共助の力を高め、介護予防につなげる

### ① さくら会



地域で独居老人が増えている。健康長寿を願って、「リハビリキッチン」を導入しての介護予防と、「サロン」による住民同士の見守り、コミュニティ機能の充実を図る。参加者には特定健診を受けてもらい、毎日、自分で食べ物をチェックしてもらう。管理栄養士指導のもと、月2回の調理実習とミニサロンを開催し、1年後に再度、特定健診を受け、どう変化したかを確認する。食材の買い出しと準備、調理、食事や片付けは皆で役割を分担し、栄養の偏りも点検していきたい。

## GROUP 木を、花を植えよう、森をつくろう

### ② 森の中の高知駅



高知市民が憩い、楽しめる緑豊かな高知駅となるよう、今年も植樹や花植えを実施する。高知駅西側の駐車場に緑地帯があり、高知市と話し合って2本の植樹が決まっている。花は年間600株ぐらいを電停の脇にある花畑に植えたい。月報や、帯屋町で開催しているライブでのチラシ配りは継続し、市民の皆さんへの呼びかけを行う。他のボランティア団体等も参加してくれたり、行政や町内会とも話し合ったりしている。ハードルは高いが、今後、学生との連携もできたらと思う。

## GROUP 食べることから始める、元気なまちづくり

### ④ 高知県リハビリテーション研究会 食を考える委員会



77品目を収載したレシピ集100部が完売。増刷して販売の拡大をめざす。また、食事支援のための講習会も回数を増やして年6回開催する。参加者はヘルパーやケアスタッフだけでなく、自宅介護の家族や当事者にも広げていきたい。在宅介護に役立つワンポイントアドバイスの講習会では、栄養の取り方や口腔ケアに加え、飲み込みの悪い人の食事や、薬の飲み方、とろみの付け方など、食の環境を整えることの大切さを伝えたい。公民館や在宅など、地域とつながることができるよう拡大していきたい。

## GROUP みんなで考えるホームレス支援と貧困問題

### ⑤ こうちネットホップ



ホームレスと十分なコミュニケーションをとって実態を正確に把握し、他機関と連携して支援していく。リーフレット、ポケットティッシュ、ブログ、広報誌等を活用しての広報や、夜回りだけでなく、昼回りも実施する。また、ホームレス同士も含めた「支え合いバンク」の活用、課題解決に向けた講演会の事業化も検討している。来年4月施行の生活困窮者自立支援法についても、高知市や社会福祉協議会と連携して話をしたい。住民同士のネットワークづくりについても進めていけたらと思う。

## GROUP 高知空襲 被災の体験を風化させず、後世に残そう

### ⑥ 田辺島空襲を伝える会



昭和20年7月、高知市内に18万発もの焼夷爆弾が落とされ、市街の4分の3が焼け野原となった。死者は約400人を越えたとされている。この時、現在の食品工業団地近くにある「大津村田辺島」の人たちも被害に遭い、逃げまどったのだが、田辺島には当時の記録がなく、人々の記憶から薄れつつある。これではいけないと、3年前から語り部を始めているが、戦争被害の記憶を長くとどめ、不戦の思いを石の記念碑を刻んで、その地に建て、戦争の教訓を後世に伝えていきたい。





GROUP 音楽の力でまちを元気に!

## 7 高知街ラ・ラ・ラ音楽祭2014実行委員会

助成1年目は会場設備のランクアップ、2年目は会場の増設と、他の助成先団体の発表の場を設けて、スタンプラリーのチェックポイントとして協力を促した。今年度は、更に新たなつながりを作ると共に、世代やハンデを超えた交流の場としたい。音楽を楽しむだけでなく、音楽でまちを元気にするためにはどうしていけばよいか、主体的に考えて行動することが少しずつできるようになってきたので、この意識を若い世代や、新しく入ってきた人にも伝えていきたい。



GROUP 若者たちの活動を通して繋ぐ地域の輪。

## 8 大津子ども会連合会

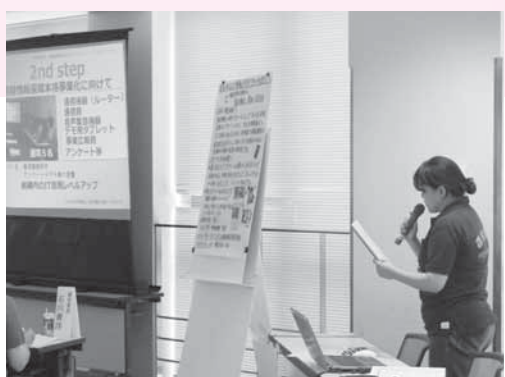
子どもたちの健全育成のため、子ども会の指導者や地域の方々に協力してもらって事業を進めていく。地域の子もたちとの関わりの中で、我々、青年たちも成長し、地域や人との共生を考えていけたらと思う。大津地区がどんな地域であるか、まちに対して何ができるのか、他の地域ではどう取り組んでいるのかを勉強したい。子どもたちとの接し方や伝え方、子どもたちが伝えようとしていることが何かを学んで、子どもたちに自分たちの背中をしっかりと見せられるようにしたい。



GROUP 若者による土佐の日曜市の活性化に向けた取り組み

## 9 Sunday Market Supporters

他団体や企業と連携して、県外に日曜市の情報発信をして、観光客の集客につなげたい。助成1年目は出店者とのつながり作り、2年目はスタンプラリーなどで、日曜市を知ってもらおうきっかけ作りをした。3年目となる今年度は、日曜市のインターネット販売を仲介し、日曜市の売り上げを活性化させる。この目標に向かい、年5回の農家訪問、日曜市のツアーガイド、SNSパンフレット作りなどを継続して実施する。日曜市の情報提供により、日曜市の更なる活性化をめざしたい。



GROUP 要約筆記で情報バリアフリーのまちに!

## 10 NPO法人 要約筆記 高知・やまもも

助成1年目は、動画とパンフレットによる情報発信を行った。今年度は利用者の利便性を高めるため、会場に設置したスクリーンの死角をなくし、手元の端末で文字を見られるよう、遠隔情報保障に取り組む。機材や通信機器は、これまで個人の物を使用していたが、団体に整備することで、使える人数を増やし、対応できる体制づくりをしたい。また、利用者には「手書きの文字の方が温かみがある」と好む人もおり、手書き要約筆記を画像で配信する試みも継続して、利用者の多様なニーズに応えていきたい。



GROUP 新旧が融合し、元気に彩り「栄える」まちづくり

## 11 高知駅北サイト「栄える」TOWN実行委員会

高知駅が生まれ変わり利便性が増した一方、近所付き合いが希薄化したように感じる。6年前から栄田町の公園でお月見の夕べなどのイベントを行ってきたが、もっと地域とともに成長できるものにできないかと思い、2年前に団体を立ち上げて、クリスマスのイルミネーション、七夕祭り、流しそうめんなどを実施。今年度は、地元消防団との防災イベントなど、地域住民を巻き込み、3世代が運営に携わって、互いの役割を意識できる環境を作っていく。



GROUP 生活困窮家庭の教育の負の連鎖からの脱却

12 NPO・JRC日本ちびっこ龍馬元気の会

地域と家庭の教育力が低下している昨今、非行、いじめ、自殺など、子どもたちにとって解決困難な問題が山積している。心や家庭に問題を抱えている子どもを育てる取り組みとして、教育心理学上「ギャングエイジ」とも呼ばれている小学3・4年生を対象に「グランドライン塾」を開校したい。学習内容や学習習慣づくりの重要な学年なので学級崩壊を防ぎたい。また、悩める若い小学校教員のための元気塾を開校し、諸先輩方の知恵と知識を借りながら先生方への支援をしていく。

D 「まちづくり拠点整備」コース



GROUP 高知市北部地域支え合いの拠点づくり

1 NPO法人 地域サポートの会 さわやか高知

有償ボランティアで、病院送迎、家事全般、子育て、バザーなどの活動をしてきた。介護保険制度の見直しや会員の高齢化に伴い、世代を超えた地域支援に貢献するため、居場所づくりを計画。事務所の1階部分50坪を借り、会員や地域の皆さんの協力で、畳スペースを作ってもらったり、家具や調理器具などの寄付をしてもらったりした。今回は、台所回りやトイレの改修、エアコンの設置などをしてほしい。行政や他団体、社会福祉協議会とも連携し、いつでも、誰でも、自由に利用してもらえればと思う。



GROUP 子どもたちとつくる「ひろっぱ」のような居場所づくり

2 こども支援ネットみんなのひろっぱ

家や学校に居場所がなく、夜遅くまで繁華街で時間をつぶさなければならぬ子ども、食事や宿泊を得たいために危険な目に遭う子ども、一人ぼっちで寂しく不安なまま夜を過ごす子どもたちのために、安全で心安らげる暖かい居場所を子どもたちと作りたい。また、整備後は、悩みの相談、食事の提供、学習支援を行う。地域ミーティングを継続的にを行い、ボランティアの勧誘もする。子ども、地域、応援してくれる人をつなぎ、その出会いの中で、子どもたちの自己肯定感を育てていきたい。

● 運営委員のコメント ●



運営委員長  
増田 和剛  
(高知中・高等学校教諭)

まちづくり活動は、人と時間との関わりの中から生まれる空気のようなものです。この空気づくりを継続、拡大させるためには、まちづくりへのアプローチ=きっかけづくりの場所の設定や、情報発信の拠点づくりも活性化させるためのプロセスの一つとして重要となってきます。



副運営委員長  
堀 洋子  
(社団法人高知県建築士会)

今年度は18団体と多数の応募があり、嬉しくも厳しい審査会でした。まちづくりの原点とも言える地域活動が6団体あり、高知のまちにとって頼もしく思いました。助成されなかった団体も大切な取り組み内容ですので、多くの方の賛同を得るひと工夫をされ、再度の応募をお待ちしています。



運営委員  
池 美保子  
(高知県立大学社会福祉学部  
社会福祉学科3年生)

今年の夏の審査会、予想以上に熱かったです。例えば高い志や夢があったとしても、必ずしもそれが高知市民のニーズと一致するとは限りませんし、本当に判断が難しいところでした。今年度助成が決まった団体さんの活動成果を、今回も心待ちにしています。皆さん頑張ってください！



運営委員  
石川 貴洋  
(認定特定非営利活動法人  
環境の社こうち 事務局長)

初めて臨む審査会は、丁々発止、悲喜こもごもの波乱万丈な展開の中で、発見と葛藤に満ちた、濃〜い日でした。数日が過ぎ、助成から漏れた提案ばかり思い返してしまいます。周囲の共感と協力をさらに集める工夫をして、ぜひ活動の継続を。願わくば、来年の審査会で再会できますように。



運営委員  
川崎 敬子  
(グラフィックデザイナー)

この暑期中、マラソンをしたような審査会でした。多くの応募ありがとうございました。活動が、どこまで広くまちづくりにつながっていくのか、日々の活動がファンのお金でどこまで飛躍するか…。頭を悩ませました。獲得団体は、大事な高知市のお金を、有意義に活用していただきたいと思えます。



運営委員  
近藤 昭仁  
(元高知市市民協働部長)

まちづくりファンドを活用することで、各団体の事業がさらに発展・拡大して欲しいと思いつつ、公金から支出されるために、審査員は事業内容、支出等が主旨に合致しているかどうかを判断することが常に求められます。今回は18団体もの多くの応募があり、神経を使い少し疲れましたが、各団体の地道な活動と熱い思いを例年以上に強く感じ、活気ある審査会でした。



運営委員  
近藤 二夫  
(公益財団法人  
ドナルド・マドナルドハウス こうち  
ハウスマネージャー)

今回、初めて参加させていただきました。高知市民の税金によるファンドであることで、責任を感じつつ話を伺いました。熱い想いに共感すると共に多くの方が高知のまちを良くしようと活動されていることに感動しています。



運営委員  
四宮 成晴  
(四宮計画事務所)

今回はどの案件も志深く、高知のまちやひとに寄りそう心ある活動であったため、いつになく心を砕きました。どの訴えにも気持ちや研ぎ澄ませ、そして、“まちづくりファンドのめざすもの”に透過させながら、地域に寄り添い、かつ、広がりや協働というファクターを感じることを頼りに判断させていただきました。



運営委員  
宮地 貴嗣  
(ラ・ヴィータ  
宮地電機株式会社)

今回も素晴らしい事業の申請をいただき、ありがとうございます。公共性があるかどうか、助成可否のポイントです。多くの高知市民にとって価値、意味があるかどうかということです。これからも高知市のまちづくりに貢献する活動がたくさん増え、ファンドの申請が増えることを楽しみにしています。

# 二〇二四年度 公開審査会を終えて

副運営委員長 堀 洋子  
(社団法人 高知県建築士会)



「まちづくり一歩前へ」コースには十二事業が応募。一団体、審査直前、他の助成金を得ることができ、辞退されましたので、二〇二四年度は十一事業の審査となりました。そのうち八事業の助成が決定となりましたが、順に、事業を進めていく上で、私なりの評価とお願いをさせていただきます。

まず、「さくら会」。会を開くときにはオープンに、他の地域からも来られるような形にしてください。そうすれば高知市のモデル事業にもなると思います。「森の中の高知駅」は、残念ながら、昨年度に続いて二回目の助成にはなりませんでしたが、今後も活動をされる仲間を少しずつ増やすような工夫をされたらと思います。たとえば、今回、助成先となった事業の「高知駅北サイト栄えるTOWN実行委員会」や「高知街ラ・ラ・音楽祭二〇二四実行委員会」などとコラボをするなどして、もつと輪が広がれば良いと思います。「高知県リハビリテーション研究会 食を考える会」。最終的には各個人のところには伝わるようなシステムを作つて、レシピ集をオープンにしてください。将来的に、サイトのアクセス数が多くて困るといった話が聞けると嬉しいですね。「こうちネットホップ」。生活困窮者自立支援法が来年度から施行されます。そうなると、やりにくい部分も出てくると思うので、その法からはみ出た部分のサポートをさせていただけたらと思います。「田辺島空襲を伝える会」の記念碑建立は残念でしたが、戦争の語り部の時間が迫っているという危機感、よく分かります。当ファンドでは「まちづくり」として、どう伝えていくのかが活動の大切な部分になると思いますので、出前授業で戦争の教訓を伝える紙芝居やDVDなどを製作し、多くの人に伝えるといった取り組みで再度、挑戦してください。「高知街ラ・ラ・音楽祭二〇二四実行委員会」。このコースでは三回目の助成で最後になります。ぜひ、「森の中の高知駅」とタイアップし、これまでの活動が広がるようなサポートをお願いしたいです。また、少しでも構いませんので、助成先団体から寄付金をいただくという、当ファンド二件目の事例を作ってください。

「大津子ども会連合会」。慣例事業を助成対象としにくいですが、この地区の「よさこい祭り」の地方車を修繕するにあたり、地区のお年寄りや若

者が一体となって取り組む、ということに対し、助成することとしました。地域活動で若者の参加者が減少しています。将来を担う若者の活動に期待しています。

「Sunday Market Supporters」も、今回、三回目の助成で卒業となります。学生が日曜市をサポートするという活動は高知の一つの財産になりますね。この活動を継続するために、次年度の学生に繋がるよう、流動的なシステムを作つてほしいと思います。「NPO法人 要約筆記 高知・やまもも」。活動も早くスムーズに進んでいます。機材の管理、資金繰りなどを考えてみてください。

「高知駅北サイト『栄える』TOWN実行委員会」。この地区は区画整理事業後のコミュニティ再生中、日赤の移転後を見据え、まちの賑いと人の結び付きを再生させる取り組みです。この地区にはお年寄りも多いので、若者によるまちの再生に期待しています。

「NPO・JRC日本ちびっこ龍馬元気の会」。残念でした。市や県や国に、こういう問題を解決する場がなければいけないと思っています。ただ、そこに資金が入ると行政の枠にはめられた取り組みしかできなくなります。困っている先生に、「一緒に話をしようや」と言うことのできる場所を開設することが最初の一歩だと思います。賛同してくださる方を増やしてください。「こういう活動をやっている」ということを社会に知ってもらえれば、前が開けていくと思います。

次に「まちづくり拠点整備」コース。高齢者と子ども、対象は違いますが、二団体とも「居場所づくり」という共通のテーマでした。まず、助成先を選ばれた「NPO法人地域サポート会さわやか高知」。昔のように子ども大人も集えるような場所を作りたいという熱意が伝わりました。ただ、クロージングのイメージがあるので、お年寄り・子ども・お金がある人、ない人、みんなが一堂に会せるオープンな施設を作つてほしいと思います。

「子ども支援ネットみんなのひろっぱ」。残念でした。子どもたちが安全で心安らげる場所づくりということで、取り組みを否定するものではありませんが、もう一歩、新しい要素を入れていただいで、実績を重ね、再度、チャレンジしていただきたいと思っています。



# 2014年度 中間発表会

## 発表会の流れ

2015年1月25日(日)、「公益信託 高知市まちづくりファンド」2014年度B・C・Dコース11団体による中間発表会開催されました。応募団体・一般・関係者合わせて70名が参加しました。

### 1 プレゼンテーション 2 付せん貼りタイム 3 意見交流



助成団体が、事業の報告を模造紙1枚にまとめ、発表(B・Cコース3分間、Dコース5分間)。各事業についての良い点・質問・提案・その他の意見を付せんに書く。



記入済みの付せんを各団体が発表で用いた模造紙のところに貼る。



運営委員が、貼られた付せんの内容を団体ごとに紹介し、参加者との意見交流を実施。

## A

### 「学生まちづくり」コース

日曜市を、より買い物しやすい場所へ

#### A1: えがお宅配便

事業遂行できず、助成金44,000円を返還する予定。

## B 「まちづくりはじめの一歩」コース

### GROUP 市民対話「災害～まちの再生」

#### 2 高知のまちを考える十八の会

平成26年10月18日(土)、市民対話「災害～まちの再生」を高知市立自由民権記念民権ホールで開催。参加者35名。内容は、最大級と言われている南海トラフ地震を想定して、①高知市の災害状況、②被害状況と復興計画、③事前復興の提案。現実的に高知市は2メートルの地盤沈下後、大部分が海の底となる現状をどう考え、どう対策をしていくか、正しい被災状況を学んだ上で、被災する前の活力のある時に対策をしておくことの必要性を学ぶことができた。行政主体ではなく、市民主体でできることは何かを問いたい。現在、講演内容のビデオを作成中。



### GROUP 高知家アロマでお遍路さんに足湯のおもてなし!

#### 3 高知アロマボランティア団体ふわり

おもてなしを行う場所の確保がなかなかできず、駐車場を借りて、屋外で月1回行ったもの、お遍路さんへの足湯は、お遍路さんに声をかけても、「時間がない…」などの理由で実施できずにいる。しかし、2月から実施場所の確保ができ、月2回くらいのペースで活動していく予定。SNSでは、事前に予定日などを告知している。この事業の宣伝を目的に、ソーレ祭で足湯を実施し、たくさんの方に体験していただくことができた。広報の手段として、当団体がこのような活動をしていることを知っていただく機会を作ることができたと思う。



## C 「まちづくり一歩前へ」コース

### GROUP 地域の共助の力を高め、介護予防につなげる

#### 1 さくら会

地域活性化の目的で、月2回(第2、第4金曜日)、団地集会所でリハビリキッチンを始めた。毎回、体組成や体重、血圧も測り、科学的に体がどのように変化しているかを調べている。最近では15~16人の方が集まっており、料理をしたい人は料理を、体操をしたい人は体操を、後片付けができる人は後片付けをするなど、自分でできるスタイルで参加。食後は管理栄養士からのアドバイスもあり、家では10品目シートを付けていることや、食後、毎回管理栄養士さんから食にまつわる話も受け、バランスの良い食事を心がけるようになっている。



**GROUP** 食べることから始める、元気なまちづくり

**4** 高知県リハビリテーション研究会 食を考える委員会

食事支援のための講習会を3回開催。9月24日は介護職を対象に減塩の工夫について管理栄養士が話し、一食が塩分2gの調理実習をした。10月26日は自宅で介護をする家族を対象に実施。12月11日は薬剤師が薬と食事について話し、便秘予防と対策の調理実習をした。同じ内容で自宅介護者向き講習会を3月15日に予定している。毎回、初参加の方がおり、継続の大切さを感じている。現場のニーズにあった内容の講習会をめざしたい。簡単レシピ集はヘルパーの食事づくりに活用してもらい、食事に困難な場面で使ってもらえるように広げていきたい。



**GROUP** みんなで考えるホームレス支援と貧困問題

**5** こうちネットホップ

フォーラム「生活困窮者支援のネットワークづくり」（10月26日実施）では、生活困窮者支援に関わる各団体の活動状況を情報交換・共有し、今後の連携に向けた課題と方向を探った。パネリスト5名が報告。約50名が参加。また、貧困問題を考える講演会「ホームレス状態からの脱却を支援して」（11月29日実施）では、「認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい」の理事で、東京・新宿を中心に路上生活者をはじめ、生活困窮者への相談・支援活動など幅広く取り組んでいる稲葉剛さんを迎えて、講演してもらった。参加者約60名。



**GROUP** 音楽の力でまちを元気に！

**7** 高知街ラ・ラ・ラ音楽祭2014実行委員会

全10カ所の屋外ステージで、120組、約460人が演奏する音楽祭を実施。約6,000人が来場。高校文化連盟との協働で高校生出場枠を設置した結果、若い参加者、観客が増加した。また、新設した飛び入り会場は大盛況で、新たな人の関わりだけでなく、街に賑わいを創出。他の助成先団体に協力してもらって実施したスタンプラリーや、南相馬ファクトリーでのバッジ制作は今年も継続して行った。今後の課題は、今ある他団体とのつながりを、まちファン卒業後にどのように継続し、広げていくか、また、それを実現できる人材の育成である。



**GROUP** 若者たちの活動を通して繋ぐ地域の輪。

**8** 大津子ども会連合会

8月のよさこい祭りを皮切りに月1回以上のイベントを実施しながら、青年と子どもたち、協力団体との繋がりを作った。10月の地域公開イベント「ぼくらの町に玄蕃太鼓がやってくる」では、地域の子どもからお年寄りが参集。月1の定例会で、まちづくりの学習を行い、子ども会の想いや願いを練りながら、力を合わせて「ひとりひとりがお互いに助け合って生きていくまちづくり」をめざしている。まちづくりの一端に関わっているという意識をもち、地域の環境・人・集団に働きかけ、それらを結んでいく事業が具体化していくよう展開していきたい。



**GROUP** 若者による土佐の日曜市の活性化に向けた取り組み

**9** Sunday Market Supporters

出店者サポート（店番・収穫の手伝い）、情報発信の改善（Facebookの活用）、外部との連携や視察（他街路市の視察）等に重点を置いた活動に取り組む。日曜市内での休憩所・観光案内所の運営を軸として、高知大学・黒潮祭での日曜市おでんの販売や、お客様感謝Dayでの日曜市クイズラリー等のイベント企画、季節イベントなどを通して、出店者の商品売上への貢献や、SMS・来客者・出店者をつなぐきっかけを作ることに成功。今後の活動の引き継ぎや体制づくり、日曜市のリピーター・ファンづくりが今後の課題で、力を注いでいきたい。



GROUP 要約筆記で情報バリアフリーのまちに!

10 NPO法人 要約筆記 高知・やまもも

広い会場で、スクリーン以外に、手元のスマートフォン、携帯端末などでも、要約筆記を見られるようにした。昨年8月から依頼元の許可が得られた派遣現場、高知市と須崎市で、計5回実施。アンケートでは、「手で確認できるのは便利」「講演内容を確認しやすかった」などの記載があった。一方、「アクセス方法を資料の中に載せてほしい」などの意見もあり、次回からアンケート用紙の裏面にアクセス方法とアドレスを記入できるようにして、全員に配布する予定。一人でも多くの人の利用に繋げていきたいと考えている。



GROUP 新旧が融合し、元気に彩り「栄える」まちづくり

11 高知駅北サイト「栄える」TOWN実行委員会

地域力の創造を目的とした活動に向け、「3世代プロジェクト」として活動することで、それぞれの役割や目的が具体化された。スタッフの意識が高まることにより、協力者が増えるなど、さまざまな広がりもみられ、全体的な相乗効果が現れている。お月見やクリスマスイベントの他、体験型教室を開催したことで、親子での参加者がその場で交流し、親睦がより深まった。2月の体験型教室では、けん玉教室を開催し、昔あそびにスポットを当てて、交流する予定。また、今後は、今まで以上に、保育園や学校との連携を深められるよう努力していきたい。



D 「まちづくり拠点整備」コース

GROUP 高知市北部地域支え合いの拠点づくり

1 NPO法人 地域サポートの会 さわやか高知

拠点の名称を「サロンさわやか」とし、トイレ、エアコン、キッチンなどの改装を行った。また、壁の塗り替え、畳スペース、諸々の備品は、地域の皆さんや会員に協力してもらった。8月24日(日)に無事オープン。各方面から約100名の人たちが集まってくれた。「誰でもいつでも自由に」という運営方針に沿って、当面は、月～土曜日の9時～17時、使用料は半日で100円、コーヒーなどの飲み物100円、会議費は500円とし、細かな規則は設けない。自主的に体操、料理、健康講座、麻雀、お茶会などに利用されており、日々、活気が増している。



退任の挨拶

運営委員 川崎 敬子 (グラフィックデザイナー)



さまざまな人がいろいろな思いを持って、仕事ではなく、地域のため、高知のために動いているということは、普段の生活の中で、なかなか実感する機会はありません。ファンドという場所は、そんな人たちが集まって思いを発表するすばらしい場所です。助成金獲得という大きな目標の他にも、グループ同士交流し、つながり、助け合うような場になりつつあることをうれしく思います。今回ファンドの助成を卒業するグループでOB会を作りたいという提案もありました。ファンドは進化しています。これからは審査ではなく、サポーターとして関わっていこうと思っています。ありがとうございました。

運営委員 近藤 昭仁 (元高知市市民協働部長)



運営委員として公開審査会を経験させていただき、福祉・教育・環境等の多種多様な分野での発表を聞きながら、応募団体の皆さんの地道な地域活動によって高知市のまちづくりが支えられていることを実感しました。核家族化、少子高齢化が進行し、地域においては、近隣との付き合いが減り、人間関係や仲間意識が薄れてきている中で、何とか住みやすい、みんなが安心して暮らせるまちにしたいという熱い思いが伝わってきました。それぞれの活動ではさまざまな苦労があると思いますが、根気強く継続され、事業がなお一層、発展されるよう期待します。

# 「二〇二四年度中間発表会を終えて」

運営委員長 増田 和剛  
(高知中・高等学校教諭)



まちづくりというのは、長い時間をかけて、つなげていかなければならない活動です。すぐに結果をださなければならぬと思っている方が多いように思いますが、現時点での成果と、今後、活動をどのような形で膨らませていくかという工夫が必要だと思えます。

さて、すべての活動の始まりは、問題意識をもつことから始まります。危機感という問題意識を投げかけている「高知のまちを考える十八の会」は、南海大地震が来る前に、震災後の復興意識を高める取り組みで、非常に立派な活動です。高知の実情を伝え、広げている「こうちネットホップ」は、問題提起と共に、それを解決する方法を考えていくまちづくりでもあります。

また、活動のめざす方向を明確にすることで、「さくら会」のリハビリキッチンの活動は、高知の置かれている現状の中での取り組みとして、高知の一つのモデルケースになると思います。また、「食を考える委員会」は、食を通して高知の実情を伝えていく。食育は、子ども、そして、大人にとっても大事です。地域サポーターの会「さわやか高知」は、誰でもいられる拠点づくりにおいて、いろいろな人を巻き込み、手作りによる取り組みには、今後の広がりと可能性を感じます。

広がり、つながる、という点では、「高知街ラ・ラ音楽祭二〇二四実行委員会」は、三年前に比べ、今年度は、高等学校文化連盟音楽専門部の参加もあり、活動の幅も広がりました。「大津子ども会連合会」の「まちの役割は、まち結び」という言葉が印象的で、子どもたちの時から、いろいろな経験をすることで、気付ける人になる。大人になった時のまちへの関わり方という点で、この積み重ねがとても大事になってきます。身の丈で、まずやってみて、活動に手作り感を出すことも大事なポイントです。手作り感を感じさせる

「高知アロマボランティア団体ふわり」は、取り組みが難航しているようですが、発想の転換や他団体との連携をしてみることで活動の見せ方や見え方について可能性がでてくると思えます。そして、「Sunday Market Supporters」の活動の勢いは、成果を出すことよりも、やりたいという気持ちや伝わり、その思いに賛同する大人が周りにいるという関係があるからこそ、この活動が膨らんでいくのだと思います。「高知駅北サイト栄えるTOWN実行委員会」は、今後、いくらでも展開するまちでの活動なので、活動内容を欲張らず五年、十年と気長に取り組みを続け、実績を積んでいってほしい。要約筆記「高知・やまも」は、実情を知っていただくと同時に、いろいろな方の力の中で、言葉、伝え方、連携というところで感動しました。

長く活動をしていけば、思惑と異なった結果になってみたり、活動に対して限界を感じたりする時が来ると思います。その時は、いつも原点に戻り、現在進行形の活動を二度、整理し、軌道修正することも必要になります。また、活動を始めたばかりの時は、気持ちばかりが先行しがちです。まずは、活動のビジョンを整理し、目的を明確にした上で活動を進めていきたいと思います。活動に対しての成果も必要ですが、活動の中にも気持ちの余裕をもつことも大事だと思います。

最後に、それぞれの団体の事業に関して、団体の一事業で終わるのではなく、これからの地域に根付いていくか、そして、地域にどのように関わってもらえるのかという大きな課題をクリアしていくことが、まちづくりファンドの最終目標であり、目的ではないかと思っています。七月の最終発表会に向けて、また一歩、前進してみてください。

## ● 運営委員のコメント ●



運営委員長  
増田 和剛  
(高知中・高等学校教諭)

まちづくりをはじめるきっかけは、様々な経験の中から問題が提起され、その問題を解決したいと思う仲間と繋がった時に始まります。そして、活動を進めていくうちに思い描いていたカタチではない想定外の展開や計画通りに進まないことも含めて想定内とした、チーム力が大切だと感じました。



副運営委員長  
堀 洋子  
(社団法人高知県建築士会)

今、若者の地域活動が少なくなっている中、今回の助成団体は若者の活動が多いと感じました。若者が地域の先輩、年配者と共に頑張っています。また、他の地域の若者が地域再生に立ち上がり、その地区の町内会長さんと共に活動しています。改めてファンドの広がりや助成の必要を感じました。



運営委員  
池 美保子  
(高知県立大学社会学部社会学科3年生)

各団体の皆様、中間発表会お疲れ様でした。公開審査会から半年間が経ち、それぞれ事業推進に向けての道筋や課題が見えてきたことと思います。意見交換などで得たアイデアや知識を活かすことで、残りの半年間の活動がより充実したものになることを期待しています。



運営委員  
石川 貴洋  
(認定特定非営利活動法人環境の社こうち 事務局長)

中間発表会は「ちゃんと活動しています！」とアピールする場？それもひとつ。でも、それだけ？助成金を得て、新しい事を始めてみれば、思いがけない事態に遭遇し、戸惑うこともあるのでは？発表会は、それを乗り越える工夫や経験を交換し、みんなで知恵を出し合う場でもありたいですね。



運営委員  
川崎 敬子  
(グラフィックデザイナー)

どのグループも着々と活動が進んでいてパワーを感じます。助成金が有効に使われ、活動の後押しができていて、ほっとしました。中でも「やまも」のネットを利用した要約筆記には、驚かされました。活動の質が一気に上がりましたね。「SMS」の明るく楽しんで取り組んでいる姿も良かったです。



運営委員  
近藤 昭仁  
(元高知市市民協働部長)

今回は地域内で活動を積極的に展開されている報告が多かったように感じました。暮らしやすい元気なまちにしたいという思いは、皆、同じですので、町内会をはじめとする地域の関係団体と連携していくことで、つながりが生まれ、より一層、活動が広がり、地域が活性化されると思います。



運営委員  
近藤 二夫  
(公益財団法人ドナルド・マドリードハウス 高知ハウスマネージャー)

半年間の成果や課題など聞かせていただきました。参加された皆さんにも共有いただけたことと思います。共感する部分もあり、参考になる部分もあったのではないのでしょうか。私自身も皆さんのまちづくりへの想いに、あらためて刺激を受けました。最終発表会を楽しみにしています。



運営委員  
四宮 成晴  
(四宮計画事務所)

中間発表会、いつも楽しみにしています。申請時の計画どおりでない団体、思わぬ方向に向かう団体、予想外の効果や成果を出す団体など、さまざま。しかし、どの団体も到達点がぶれることなく、真摯な汗を流し、仲間を増やしながら邁進する姿勢には、こちら背中がしゃっきりとなります。



運営委員  
宮地 貴嗣  
(ラ・ヴィータ宮地電機株式会社)

高知市を良くしようと事業に取り組んでいる各団体の中間報告を聞くことができました。うまく進んでいる団体、そうでない団体がありました。中間発表会に参加いただいた皆さんから、他の団体に対して意見や提案をたくさんいただくことができました。最終発表会を楽しみにしています。

# 公益信託「高知市まちづくりファンド」

## 助成コース紹介

### A:「学生まちづくり」コース

活動の第一歩を踏み出そうとしている、または、活動が定着していない学生団体の活動を支援します（うち3名以上が18歳以上の学生であること）。

**助成金額** 上限5万円

**審査方法** 書類審査で助成先を決定します（助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます）。

### B:「まちづくりはじめての一步」コース

活動の第一歩を踏み出そうとしている、または、活動が定着していない市民団体の活動を支援します。

**助成金額** 上限5万円

**審査方法** 書類審査で助成先を決定します（助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます）。

### C:「まちづくり一歩前へ」コース

市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援します。

**助成金額** 上限30万円

**審査方法** 公開審査会において、活動の内容について発表をしていただき、公開審査で助成先を決定します。

### D:「まちづくり拠点整備」コース

高知を住みよいまち、豊かな地域社会にしていくために行うまちづくりの活動拠点を整備する事業を支援します。

**助成金額** 上限100万円

**審査方法** 公開審査会において、活動の内容について発表をしていただき、公開審査で助成先を決定します。

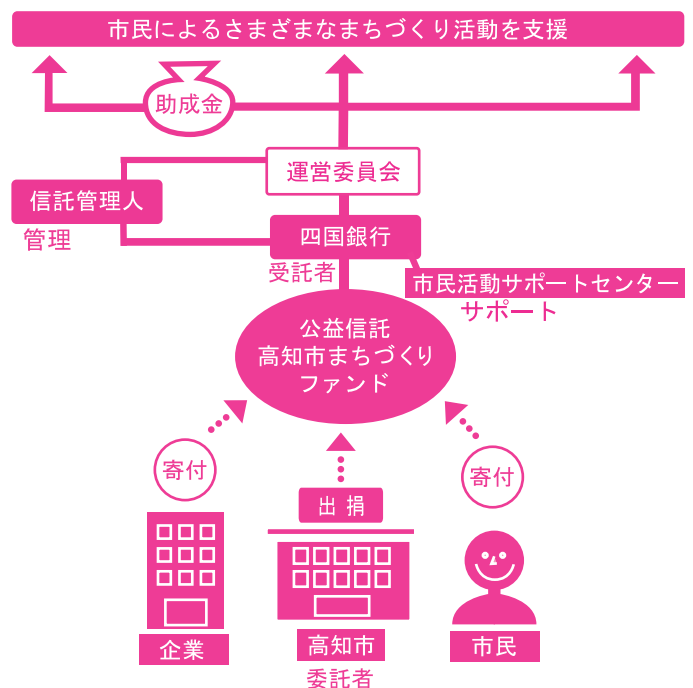
お問い合わせ先：

高知市市民活動サポートセンター TEL 088-820-1540

**高知市市民活動サポートセンター**

市民活動の輪を広げようと、1999年4月に高知市が設置した施設です。運営を「認定特定非営利活動法人NPO高知市民会議」が担っており、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報の提供、活動に必要な機器の利用や会議室の貸し出しにも応じています。仲間を広げたり、活動のお知らせをする掲示板や団体が利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催していますので、お気軽にご活用ください。

公益信託「高知市まちづくりファンド」は、「市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」に基づき、まちづくり活動団体への助成を目的に、2003年5月、高知市が四国銀行に3,000万円を出捐（しゅつえん）して創設、また、2012年4月、あらたに3,000万円を追加出損しました。助成先は公開審査会で決定し、透明性の確保とともに、市民同士の交流や、まちづくりの学びの場となることを目的としています。公益信託「高知市まちづくりファンド」の11年目となる2013年度からは制度を一新し、より利用しやすい助成金制度に変わりました。これからも多くの人にまちづくりに興味をもってもらい、まちづくりに参加するきっかけとなるような運営をめざしています。



## まちづくりファンドは皆様がまちづくり活動を支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設にあたり、高知市から出捐（しゅつえん）された基金は、毎年取り崩しながら助成していくことになります。まちづくりファンドが市民のまちづくり活動に活かされるように、多くの皆さまのご寄付をお願い致します。

寄付に関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。

株式会社 四国銀行  
お客さまサポート部 信託担当

〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1  
電話：088-871-2308（直通）

### 2014年度事業のまちづくりファンド（予定）

審査会・発表会は、どなたでも参加することができます。まちづくり活動に関心のある方の交流の場として、お気軽にご参加ください。

B:「まちづくりはじめての一步」コース C:「まちづくり一歩前へ」コース（2014年度助成事業）

最終活動報告書の提出期限 **7月3日（金）** 最終発表会 **7月25日（土）**

### 2015年度事業のまちづくりファンド（予定）

#### 全コース共通

《応募受付期間》

**4月20日（月）～6月5日（金）**

◆事前説明会 **5月8日（金）18:30～20:30**  
**5月10日（日）10:00～12:00**  
◆公開審査会 **7月26日（日）**  
※A・Bコースについては、書類審査のため活動紹介のみ行う  
中間発表会 **2016年1月24日（日）**  
最終発表会 **2016年7月23日（土）**

発行 高知市市民活動サポートセンター

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階  
TEL: 088-820-1540 FAX: 088-820-1665  
E-mail: info@shiminkaigi.org URL: http://www.kochi-saposen.net

**R100**  
古紙配合率100%再生紙  
を使用しています